株主の皆様へ

FUJI NIHON SEITO CORPORATION



第90期 事業報告書

2012年4月1日から2013年3月31日まで　証券コード：2114

フジ日本精糖株式会社

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素よりご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第90期事業報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

日本経済は、政府のデフレ脱却政策および日銀の大胆な金融緩和策等により急激な円安、株高となり、先行き景気回復の期待がもたれるようになってきております。

しかしながら、当社の属する食品業界、砂糖業界では少子高齢化、加糖調製品の輸入増、高甘味人口甘味料の消費増などで引き続き国内砂糖の消費減が続くものと予測されます。

加えてTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）参加交渉およびEPA（経済連携協定）、FTA（自由貿易協定）交渉の成り行き如何では、業界に大きな影響を与える可能性があり、引き続き厳しい経営環境が続いていくものと思われます。

そうしたなか当社グループ全体としては、かろうじて増収・増益となっております。

主力事業である精糖事業におきましては、販売数量自体は伸びたものの販売単価の下落、製造コストの上昇などで、減収・減益となっております。

また、機能性素材事業につきましては、大手食品メーカー向けのイヌリンの販売が依然として好調を維持しており、さらに、グループ会社のユニテックフーズ株式会社におきましても、主力商品のペクチン、ゼラチン類の販売を伸ばし増収・増益となっております。

このような状況のなか、当社は引き続き、［営業力の強化］［事業の多角化］［海外展開の推進］の3つの重点目標を掲げて経営を進めております。

この推進窓口として、4月1日に営業戦略室を新設しました。また、昨年合弁会社として設立したFuji Nihon Thai Inulin Co., Ltd.のタイイヌリン工場は11月末稼動を目指しており、今年末から日本・アジア向けに輸出開始を予定しております。この販売および海外展開の窓口として6月にFUJI NIHON（Thailand）Co.,Ltd.をバンコクに設立しております。

当社はグローバルな市場を舞台に、小さくても特徴と存在感のある企業となれるよう努力して、当社の企業理念である「夢のあるたくましい会社を目指し、健康な生活づくりに貢献します」の実現に向けて邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き尚一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2013年6月



代表取締役社長　船越 義和

国内精糖市場への依存度を低減し、持続的な成長性を確保してまいります。



代表取締役社長 船越 義和

Q 社長就任から1年が経過しました。現在どのように 感じていますか？

A 精糖業界を取り巻く厳しさのなかで、危機感や改革意識の浸透に向けて、社内への働きかけを続けています。

国内の砂糖消費量が減少傾向にあるなか、今後のTPPをめぐる動向によっては、精糖業界は一層厳しい環境に置かれる可能性があります。社長就任以来、そうした危機感を社内に浸透させ、社風や企業体質の改革に向けた意識を高めていきたいとの想いを持って、社内の各部署に対してさまざまな働きかけを行ってきました。

当社は社員間のコミュニケーションが親密で、社風には穏やかさや風通しの良さといった長所がある一方、保守的で甘さが感じられる部分も見られます。長所を残しつつ欠点を変えていきたいと思っています。

Q 当期（2013年3月期）の営業状況はいかがでしたか？

A 精糖事業は販売増ながら価格下落により売上は横ばい、機能性素材事業は子会社ユニテックフーズ株式会社および「イヌリン」を中心に好調となりました。

精糖事業は、新規顧客の開拓や販売努力の結果、販売数量を伸ばすことができましたが、販売価格が下落したため、売上はほぼ横ばいにとどまりました。販売数量増については、代理店との連携や大手ユーザーとの関係強化が効果を上げており、さらに今後は、営業担当者が末端のお得意先・ユーザー様を訪問してニーズを把握する体制も構築していく考えです。一方、利益面では、エネルギーコストなど加工費の上昇と販売価格の下落により、増益には至りませんでした。

機能性素材事業は、大手食品メーカーによる「イヌリン」製品の採用が拡大し、販売を伸ばしました。また、子会社ユニテックフーズ株式会社の開発による、ゼラチンを素材にした商品提案が大手コンビニエンスストアに採用されたことも加わり、当事業は増収・増益となりました。

以上の結果、当期の売上高は増収を果たし、当期純利益は、投資有価証券売却益の計上等もあり増益となっています。なお、売上高に占める機能性素材事業の割合は、前期の29.0%から当期は31.0%に上昇しました。

トップインタビュー

Q 海外展開に向けた新たな動きについてご説明願います。

A タイ工場は今年末から日本へのイヌリン供給を予定。そして新たにイヌリンの海外販売子会社を設立しました。

タイ・バンコクに合弁設立したFuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd.（以下、FTI）の「イヌリン」生産工場は、11月末稼動に向けて、現在建設が進んでいます。FTI工場稼働後は、今年末から日本への「イヌリン」供給を実施する予定です。当初は月200トン程度から開始し、2014年度以降は年間約2,000トンを日本に輸出、2017年度には年間6,500トンのフル生産となり、そのうち日本向け輸出は年間約3,000トンを予定しています。

そして今年6月、当社は新たに「イヌリン」の海外販売を主な事業とする子会社として、FUJI NIHON (Thailand) Co.,Ltd.（以下、FNT）を設立しました。FNTは、FTI工場が生産する「イヌリン」をタイ周辺の第三国向けに販売します。この他にFNTは、原糖に関する海外情報の収集、ユニテックフーズ株式会社が扱う機能性食品等の販路開拓や新材料発掘など、当社グループの海外展開における橋頭堡として、多角的に機能していきます。

もう一つの海外の動きとして、ユニテックフーズ株式会社が昨年夏、韓国・ソウルに合弁工場を設立したブレンド（素材混合）事業の展開があります。こちらはまだ小規模ですが、韓国や中国への販売活動を継続し、将来的には海外ブレンド事業の供給工場にしていく計画です。

Q 次期（2014年3月期）の見通しをお聞かせください。

A 円安の影響によるコストアップや先行費用の発生を見込み、増収減益を予想しています。

次期の精糖事業は、引き続き販売数量の増加に向けた努力により、売上高の維持を見込んでいます。また、機能性素材事業は「イヌリン」とユニテックフーズ株式会社によるゼラチン等の販売拡大による大幅増収が期待できる状況です。

一方、利益面では、円安の影響による原材料費および加工費の増加、競争激化に伴う利益率の低下に加え、新規ビジネスへの取り組みやFTI工場の稼働による人件費増など、先行費用の発生が見込まれます。

以上を踏まえ、次期の連結業績は、今のところ増収減益を予想しています。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 営業力の強化、事業の多角化、海外展開の推進、という3つのテーマによる事業構造改革を加速していきます。

今回の期末配当は、当初1株当たり9円を予定していましたが、砂糖販売数量の好調やユニテックフーズ株式会社の利益貢献といった改善要素と当期純利益の増加を鑑み、前期同額となる1株当たり10円を実施させていただきました。今後は、成長投資に向けた内部留保を勘案しつつ、可能な限り利益還元の拡充に努めてまいります。

当社は、「営業力の強化」「事業の多角化」「海外展開の推進」という3つのテーマに注力していくことで、縮小する国内精糖市場への依存度を低減し、持続的な成長性を確保しようとしています。

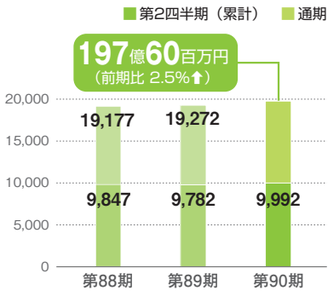
その一環として、当社は今年4月1日付で、営業戦略室の新設と機能性食品営業部への市場開発室統合による組織変更を実施しました。営業戦略室は、海外展開や新規事業などの成長施策や営業強化を全社的観点から一元的に推進します。市場開発業務は、対象を機能性素材に限定し、より効率的な開発を行っていきます。これらの体制強化とともに、次期以降は3つのテーマによる事業構造改革を加速してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

連結業績ハイライト

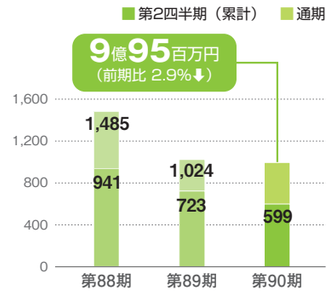
売上高

単位：百万円



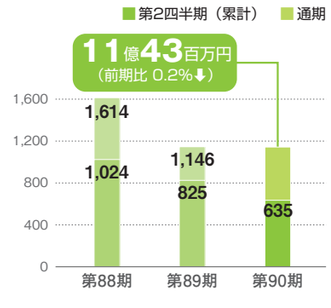
営業利益

単位：百万円



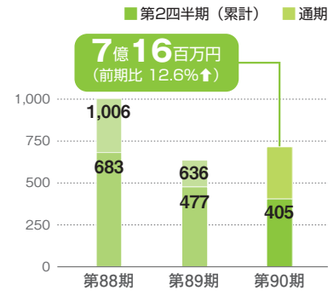
経常利益

単位：百万円



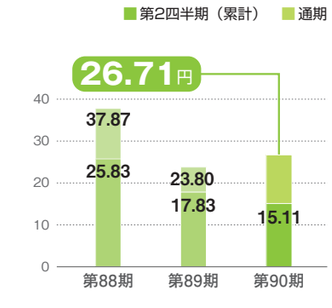
当期純利益

単位：百万円



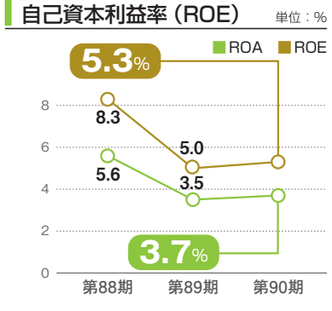
1株当たり当期純利益

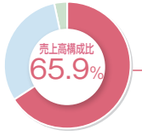
単位：円



総資産利益率（ROA）自己資本利益率（ROE）

単位：%





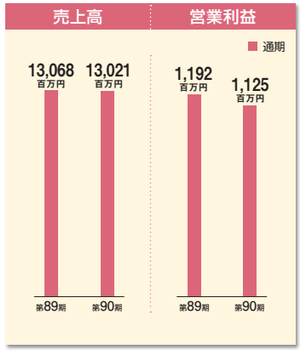
精糖事業

事業内容：精製糖、砂糖関連製品の製造販売を行っております。

当期の概況

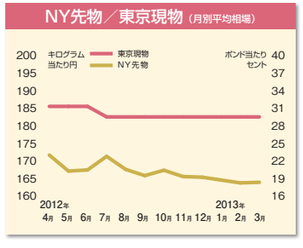
売 上 高：13,021百万円
営業利益：　1,125百万円

精糖事業につきましては、海外原糖市況は期初ニューヨーク市場24.58セント（1ポンド当たり）で始まりましたが、ブラジル・インド・タイでの順調な生産見込みから供給不安が払拭され、期初から値を下げていきました。その後、生産国の天候不順による生産減少見込みから相場は一旦上昇に転じましたが、生産に与える影響が軽微であることが分かり、再び下げに転じました。さらに供給量が消費量を上回る状況が確実になり、相場は上昇することなく下げ続け、17.66セントにて期末を迎えました。



ニューヨーク市場先物相場（セント/ポンド当たり）の動き

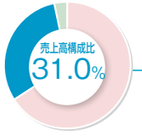
期初	高値	安値	期末	平均
24.58	24.86	17.56	17.66	20.08



一方、国内製品市況は期初東京現物相場186円（上白大袋1キログラム当たり）で始まりましたが、海外原糖相場の下落を受け7月に製品出荷価格を3円下げ、そのまま183円で期末を迎えました。

製品の荷動きについては、菓子類向けは低調だったものの、飲料向けやパン類、乳製品向けなどが好調に推移し、液糖やグラニュ糖の販売が増加、また、東日本大震災で被災したユーザーの操業が復活したこともあり、販売数量は前年同期を上回ることが出来ました。

この結果、売上高は、販売数量は増加したものの、販売単価の下落により、13,021百万円（前年同期比0.4%減）と若干ながら減収となりました。損益面では、原料価格は下落したものの、エネルギー価格の高騰による製造コストの上昇、および販売価格の下落により営業利益は1,125百万円（同5.6%減）と減益となりました。

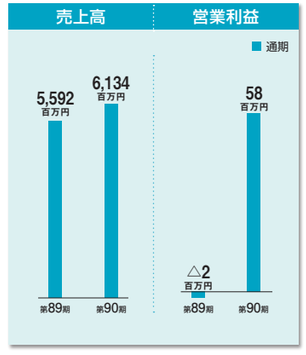


機能性素材事業

事業内容：機能性食品素材、食品添加物、切花活力剤等の製造販売、果実加工原料の販売を行っております。

当期の概況

売 上 高：6,134百万円
営業利益：　58百万円

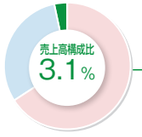


機能性素材事業につきましては、機能性食品部門で引き続き、イヌリンの脂肪代替機能を活かした採用商品が安定的に推移するとともに、需要の裾野が拡大傾向にあることなどから、販売数量は前年同期比12.4%増と順調な伸びがみられました。さらに今後の事業拡張を見据えて、平成24年6月にタイに設立したイヌリン製造合弁会社Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd.は、11月の稼働に向けて建設工事を進めております。

切花活力剤部門におきましては、東北地区の震災復興に伴う立ち直りの兆しも見えましたが、花卉類の需要が依然として低迷傾向にあることから、販売数量はほぼ前年同期並みに留まりました。

連結子会社であるユニテックフーズ株式会社においては、主力商品であるゼラチン、ペクチン等の天然添加物素材の拡販効果により増収増益となりました。

これらの結果、売上高は、6,134百万円（前年同期比9.7%増）となり、営業利益は58百万円（前年同期 営業損失2百万円）と改善し、増収増益となりました。



不動産事業

事業内容：当社が所有する土地建物の賃貸およびその他不動産関連事業を行っております。

当期の概況

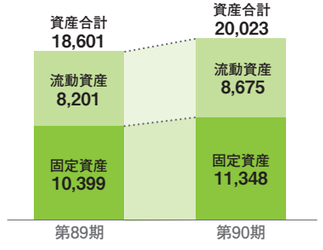
売 上 高：604百万円
営業利益：521百万円

不動産事業につきましては、自社所有物件の賃貸により、安定的な収益を確保したものの、小規模賃貸住宅の稼働率低下により、減収となりました。

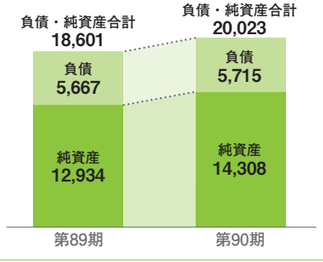
この結果、売上高は、604百万円（前年同期比1.2%減）、営業利益521百万円（同1.2%減）と減収減益となりました。

連結財務諸表

● 資産の推移（単位：百万円）



● 負債・純資産の推移（単位：百万円）



● 自己資本比率（単位：%）



連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当期 2013年3月31日現在	前期 2012年3月31日現在
資産の部		
流動資産	8,675	8,201
固定資産	11,348	10,399
有形固定資産	3,612	3,037
無形固定資産	890	1,011
投資その他の資産	6,845	6,350
資産合計	20,023	18,601
負債の部		
流動負債	3,717	3,690
固定負債	1,997	1,976
負債合計	5,715	5,667
純資産の部		
株主資本	13,039	12,549
資本金	1,524	1,524
資本剰余金	2,530	2,524
利益剰余金	9,691	9,241
自己株式	△706	△740
その他の包括利益累計額	840	384
少数株主持分	428	—
純資産合計	14,308	12,934
負債・純資産合計	20,023	18,601

（注）百万円未満は切り捨てて表示しております。

自己資本比率について

自己資本比率とは、自己資本（少数株主持分を除く）を総資産で除した数値で、財務の安定性を測る指標の一つです。自己資本は総資産における比率が高いほど財務の安定性が高いと言われています。当社の自己資本比率は69.3%であり、財務内容が非常に安定していることがおわかりいただけます。

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当期 2012年4月 1日から 2013年3月31日まで	前期 2011年 4月 1日から 2012年 3月31日まで
売上高	19,760	19,272
売上原価	15,462	15,088
売上総利益	4,297	4,184
販売費及び一般管理費	3,302	3,159
営業利益	995	1,024
営業外収益	177	188
営業外費用	28	66
経常利益	1,143	1,146
特別利益	20	22
特別損失	12	77
税金等調整前当期純利益	1,151	1,091
法人税、住民税及び事業税	363	358
法人税等調整額	74	95
少数株主損益調整前当期純利益	714	636
少数株主損失（△）	△2	—
当期純利益	716	636

（注）百万円未満は切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当期 2012年4月 1日から 2013年3月31日まで	前期 2011年 4月 1日から 2012年 3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,317	849
投資活動によるキャッシュ・フロー	△523	△399
財務活動によるキャッシュ・フロー	△121	△467
現金及び現金同等物に係る換算差額	61	△0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	733	△17
現金及び現金同等物の期首残高	1,878	1,895
現金及び現金同等物の期末残高	2,611	1,878

（注）百万円未満は切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書（2012年4月1日から2013年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
2012年4月1日残高	1,524	2,524	9,241	△740	12,549	385	△1	—	384	—	12,934
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△267		△267						△267
当期純利益			716		716						716
自己株式の取得				△0	△0						△0
自己株式の処分		5		35	41						41
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）						373	1	80	455	428	884
連結会計年度中の変動額合計	—	5	449	34	490	373	1	80	455	428	1,374
2013年3月31日残高	1,524	2,530	9,691	△706	13,039	759	—	80	840	428	14,308

（注）百万円未満は切り捨てて表示しております。

会社の概況 (2013年3月31日現在) COMPANY INFORMATION

会社概要

商号	フジ日本精糖株式会社
英文名	Fuji Nihon Seito Corporation
設立	1949年（昭和24年）7月
資本金	1,524百万円
従業員数	66名
本社所在地	〒103-0025　東京都中央区日本橋茅場町一丁目4番9号 電話 03(3667)7811(代表)
清水工場	〒424-0924　静岡県静岡市清水区清開一丁目4番10号 電話 054(334)5353(代表)
横浜共同生産工場	太平洋製糖株式会社 〒230-0053　神奈川県横浜市鶴見区大黒町13番46号 電話 045(501)0511(代表)
子会社	協立食品株式会社 ユニテックフーズ株式会社 Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd.
関連会社	太平洋製糖株式会社 マ・マーマカロニ株式会社 南栄糖業株式会社 Unitec Is Co.,Ltd.

役員 (2013年6月19日現在)

代表取締役会長	江口　達夫
代表取締役社長	舩越　義和
取締役常務執行役員	高梨　繁憲
取締役常務執行役員	渡辺　修司
取締役相談役	佐藤　伸郎
取締役	武田　浩文
取締役	村上　光廣
常勤監査役	高橋　宏寿
監査役	上平　徹
監査役	加藤　茂治
監査役	内藤　健雄

執行役員

常務執行役員	佐塚　眞弘
執行役員	櫻田　礎久
執行役員	福田　弘
執行役員	梶原　久雄
執行役員	山﨑　伸夫
執行役員	小島　康克
執行役員	大口　真央
執行役員	櫻田　誠司

監査法人

会計監査人	有限責任監査法人トーマツ

株式の概況 (2013年3月31日現在) STOCK INFORMATION

株式の状況

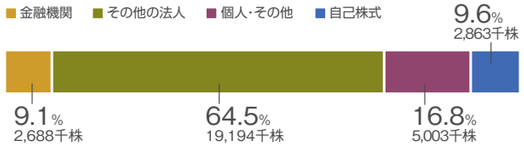
発行可能株式総数	110,000,000株
発行済株式の総数	29,748,200株
株主総数	3,490名

大株主

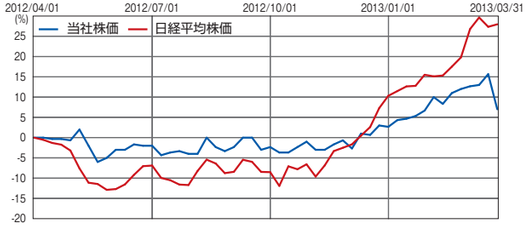
株主名	当社への出資状況 持株数（千株）	出資比率（%）
双日㈱	8,153	30.3
豊田通商㈱	2,459	9.1
鈴与㈱	1,402	5.2
和田製糖㈱	1,226	4.6
野村信託銀行㈱(信託口)	933	3.5
㈱静岡銀行	792	2.9
㈱榎本武平商店	558	2.1
新潟県砂糖卸荷受商業協同組合	500	1.9
東京海上日動火災保険㈱	447	1.7
小倉運輸㈲	440	1.6

（注）出資比率は自己株式（2,863千株）を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



比較チャート（2012年4月1日を基準日とした当社株価と日経平均株価の騰落率）



トピックス TOPICS

展示会レポート

ifia JAPAN 2013（第18回国際食品素材／添加物展）に出展

5月15日～17日の3日間、東京ビッグサイトで開催された「ifia JAPAN 2013」に当社のイヌリン「フジFF、フジFFSC」を出展しました。ブース内では、イヌリン「フジFF、フジFFSC」の性質や生理機能、脂肪代替アプリケーションの例、タイイヌリン工場のご紹介などをパネル展示しました。また、展示ブースでは「フジFF」を使用した低脂肪ジェラートをご試食いただき、脂肪代替素材としての利用をご紹介しました。多数の来場者の方にお越しいただき、当社の持つ技術力とイヌリンのPRを行うことができました。今後も用途開発を進め、イヌリンの拡販に繋がるように努力してまいります。





ABOUT ifia JAPAN

ifia JAPANとは…？

現在注目される国内外の食品原料・素材関連企業が一堂に会し、最新の食品素材・添加物が出展されます。多くのターゲット層に企業ブランド・製品力・技術力をアピールできる展示会で、新規顧客の開拓と既存顧客へのPR効果が期待できます。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月開催
株主名簿管理人 特別口座　口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上場取引所	東京証券取引所
公告方法	当社のホームページに掲載いたします。 公告掲載URL　http://www.fnsugar.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。）

【お知らせ】

（1）株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

（2）特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたします。

（3）未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

● 表紙の写真について

表紙の写真は、当社「写真同好会」の辻田和人が撮影した作品です。

撮影地
― 富士市　今宮 ―



「新芽萌ゆる」

株主優待制度のご案内

3月31日現在、当社株式1単元（1,000株）以上ご所有の株主の皆様に、3,000円相当の当社商品詰合せを7月に贈呈いたします。



※株主優待品の一例。

ホームページのご案内

当社ホームページでは、IR情報や商品情報など様々な情報をご覧いただけます。また、ネットショッピングもお楽しみいただけます。



フジ日本精糖　検索

http://www.fnsugar.co.jp/